

テーマ：『 ぼくたち 環境探検隊 ～守ろう！学校や地域の環境を～ 』

荻田町立 与原小学校

Tel. 0930-22-0399

担当者 中村 真由美



水グループの活動（ビオトープの水質検査）



西日本工業大学の協力による人力発電実験

■実践内容：

与原小学校では、6年生が総合的な学習の時間や理科・社会の時間の中で、自分たちの学校や地域の環境調べを行い、自分たちにできる環境維持や保全について考える活動に取り組みました。実践した主な内容は、校内のビオトープの現状や地域の川などの環境について調べる活動を行い、課題ごとに、空気・水・土の3つのグループに分かれ、環境維持や保全についての実験や調査活動を行いました。空気グループでは、理科の「二酸化炭素と光合成の関係」と関連し、校庭の樹木の二酸化炭素吸収量を測定したり、二酸化炭素を多く発生しないエネルギーについて調べるために人力発電の実験をしたり、西日本工業大学の方を招いて水力や太陽光発電について調べたりする活動を行いました。水グループでは、地域の川や校内のビオトープの水質パックテストをし、インターネットなどで、汚れの原因について調べたり、地域の環境委員の方を招いて、荻田町で行っている殿川の水質保全と蛍の飼育の話聞いて考えるなどの活動をしました。土グループでは、校内での色々な場所の土の様子を調べ、土壌の動物調べや簡易ツルグレン装置を作成して実験などを行いました。

■実践成果：

実践の結果、それぞれのグループで、「空気：二酸化炭素の排出を少しでも減らす生活の仕方を考え、各自実践しよう」、「水：ビオトープをきれいに整備し、生物がたくさん住める環境にしよう」、「学級園の土作りをし、有機農法で種から野菜を育てよう」という提案に基づいた自分たちの考えをポスターセッションで交流することができました。また、その情報を地域に発信することにより、地域の環境維持や保全への意欲を高めていくことができ、自分の生活を見直し、環境について考えていくという今後の実践につなげていくことができました。

■実践ポイント：

子ども達が自分の身の回りから課題を見出し、その課題を追究するために、地域の人・もの・ことを活用していく活動を重視しました。また、子ども達が多くの中から必要な情報を取捨選択できるように、インターネットを使う際にパソコンサポートを活用したり、大学の先生や学生にお話を聞いたり、日産の工場に出向いて環境保全への取り組みを聞いたりする体験活動を多く取り入れました。そのため、知識だけでなく実感として気づきを深め、身近な環境に対する自分の考えをより広げていくことができました。